

いま いま
宮城は現在も現実に立ち向かう。

2016.5.11

NOW IS.

Vol.
1
毎月11日発行
ナウイズ

in 南三陸





志津川地区 志津川中学校付近から志津川地区を見おろす。すっかり更地になった街にトラックが行き交う。



ベイスайдアリーナ

町の災害対策本部が置かれたほか、避難所や援助物資の拠点にもなった。さとうさんは、数人の歌手とともに慰問に訪れたそう。



南三陸病院



防災対策庁舎

現在は県が管理し、保存工事を実施。崩れた柱に5年の年月を感じる。



南三陸病院のロビーや病室には、切り子細工があしらわれたすりガラスが。扉や手すりにタコのイラストをあしらうなど、親しみやすい雰囲気。



また、あの、「街の音」を聞ける日まで。

MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU



▼今回訪れたまち▲
仙台市から車で2時間ほど。人口約1万人の港町。志津川町と歌津町が合併して誕生。シンボルは「モアイ像」と「オクトパス君」。南三陸さんでん商店街では、毎月第1・3日曜日に「さんさん朝市」を開催。

PROFILE

さとう宗幸 (さとうむねゆき)

1949年岐阜県生まれ。2歳で古川市(現大崎市)に移る。78年「青葉城恋唄」でデビュー。ミヤギテレビ「OH!バンドス」司会、ミュージカル・役者など歌手だけでなく幅広く活動。愛称は「宗さん」。宮城の顔として幅広い世代に愛されている。2005年、宮城県ゆかりの歌手らで「みやぎびっきの会」をつくり、チャリティー活動などに取り組み、震災後は子どもに特化した地域支援を行っている。

執筆・沼田佐和子

辛かった。避難を呼びかける防災無線の音が、耳の奥で響いてくるような気がするんです。以降、さまざまな仕事で、定期的に南三陸町を訪れているさとうさん。時がたつにつれ、人々の表情に変化が現れたと言います。「仮設に入った、仕事もどつた、公営住宅に住み替えた」と新しい生活が始まるにつれて明るい表情になるんです。具体的な将来が見えてくると、希望になるんでしょう。この笑顔がずっと続けばいいって、それだけでですね。

この日、最後に訪れたのは、30以上の商店が軒を連ねる「南三陸さんさん商店街」。平成24年2月のオープン後、視察や交流の中心拠点として人気を集めました。が、平成28年12月に閉鎖し、来年3月には、かさ上げした市街地に移転を予定しています。「どこから来たの?」来年からどう

刻々と変化する街並みと復興を見つめる新病院。

桜の花を散らす風の強い日。大型トラックが砂ぼこりを巻き上げながら通り過ぎて行きま

す。今回の目的は南三陸町。震災後、全国に名前を知られたこの街を、シンガーソングライター「さとう宗幸さん」と歩きます。

「いやあ、迷いました。待ち合わせ場所に現れたさとうさんは、開口一番そう言いました。「迂回が多くて、なかなかたどり着けなかった」。南三陸町は、かさ上げ工事の真っ最中。毎週のように道筋が変わるので、ナビに目的地を入れても、思うようには進めません。」さすがに津波の傷跡はなくなりましたが、志津川辺りを見ていると、5年たってもこんなものなのかと気が遠くなりますね。」

まず向かったのは、街中から少し離れた小高い山の上にあるスポーツ施設「ベイスайдアリーナ」。被災直後は、100人

すんのや」と、話しかけながら商店を回るさとうさん。気さくな話しぶりに、つい、閉店後の不安を漏らす店主もいました。

「これを見ると、思い出す風景があるんです」。各商店にはられた切り子細工(白い紙で作る伝統の切り絵)を見ながら、さとうさんがつぶやきます。「震災の前、川沿いの商店街で、切り子細工で街を盛り上げようという取り組みを取材したことがあるんです。風に切り子が揺れて、本当にきれいだ。あの時間いた子どもの声や、商店の扉を開ける音、自転車の走る音...そんな街の音を、街の真ん中で、もう一度聞きたいですね。」

今、南三陸町は新しい街が生まれる、その過程にあります。「街の音」がよみがえるまで、あともう少し。今度は朝市にも来ます」と話して、さとうさんは南三陸町を後にしました。

今も懸命に街をつくる南三陸町へ、さとう宗幸さんと「街の音」を探しに。

NewsPaper 南三陸町 Pick-Up

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。



平成23年3月13日の記事には、東日本大震災発生翌日の、南三陸町志津川中部部の壊滅的な被害状況が大きく掲載されました。「家々を支えていた建材はバラバラに折り重なり、トラックや泥だらけのトラクター、大破した漁船が縦横に打ち上げられている」と書かれている通り、写真に写るのは津波により何もかもが跡形もなく押し流されてしまった無残な街の姿だけで、人や街の動きは感じられません。

死者・行方不明者は8000人を超え、町の7%にあたる1144・5haが浸水。役場や公民館、小学校などの主要公共施設も被害を受け、町内全域で断水や停電が発生。最大で9753人もの町民が避難生活を余儀なくされました。

日常を一変させた大津波



震災から5年。平成28年3月11日の記事には、新たなまちづくりが進む南三陸町志津川地区の写真が掲載されました。震災の脅威を伝える防災対策庁舎の周囲は、かさ上げ工事が進む一方、画には仮設住宅が立ち並び、復興への道はまだ半ばであることが見て取れます。

平成24年9月で5750人だった仮設住宅入居者数は、平成27年12月時点3473人に減少。平成27年には、戸倉小学校や南三陸病院・総合ケアセンター・南三陸が完成し、平成28年度中には、三陸自動車道・志津川IC(仮称)が開通する予定。少しずつではありますが、新たな暮らしをスタートさせる人が増え、活気あふれるまちづくりに向けた整備が進んでいます。

新たな暮らしとまちづくり

※記事の詳細は5月末開設予定のポータルサイトで確認できます。

(写真提供：南三陸ホテル観洋・伊藤俊さん)



無料アプリ「ココアル2」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在(平成28年4月)の南三陸町の様子がごらんいただけます。ぜひ、被災地の移り変わりをごらんください。

COCOAR2のダウンロードは「Google play」「App Store」から

COCOAR2に対応していない端末もごめいます。



穏やかな漁港の町であった南三陸町は、東日本大震災に伴う大津波で壊滅的な被害を受けました。現在は高台居住地の造成工事や市街地整備に向けたかさ上げ工事のため、重機が稼働中。本格的な復興に向けてまちづくりが進んでいます。



震災前の南三陸町

現在の南三陸町

撮影地点
南三陸町東山公園

AR 定点観測

Look at Miyagi

無料アプリココアル2をダウンロードしてごらんください。

自分を育ててくれたのは、南三陸さんさん商店街です。



豊楽食堂 店主
いわた ひろし
岩田 大 さん
豊楽食堂
TEL.0226-46-3512

ファイナーレに向けて
みんなで頑張りたい。

「土日になると、7店舗ある飲食店はどこも行列になるんです。皆でランチをどう乗り切るか、そればかりですよ。一力所にたくさんのお店がみっちり集まって、しかも駐車場が大きかったのが良かったのだと思います。東北や首都圏をはじめ、大阪からもお客さんが来るんですよ。南三陸さんさん商店街は、大成功した商店街のひとつだと思います。」

「今年は、企画広報の担当になりました。季節ごとのイベントの企画を考えたいするのは、ここでできない経験だと思えます。」南三陸さんさん商店街は平成28年12月に閉鎖し、来年3月には、かさ上げした市街地に移転する予定です。「あと半年、ラストリゾートだと思っています。なにか大きなイベントで、ファイナーレを飾りたいですね。」

「幼いころから大好きな街だったので、ショックでした。平成24年の2月にこの商店街がオープンすると知り、すぐここで働くことを決めました。あいさつ回りから始め、同業の先輩に仕入を学び、今では商店街の大切な人材のひとつとして活躍しています。」



人気の南三陸きらきら丼。商店街では6店が提供。(写真は伊藤泰司)。

地元の常連も多い岩田さんのお店。

NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS MINAMI-SANRIKU NOW IS



南三陸町産業振興課 観光振興係
おぎわら なお
荻原 直 さん (山形県庄内町)



平成28年4月27日の南三陸志津川物産フェア(仙台市民広場)の様子



熱い人材が集まる産業振興課

今年の4月に赴任。観光を盛り上げたい。

荻原さんは、山形県庄内町からの派遣職員。平成28年4月に南三陸町役場の産業振興課勤務になりました。庄内町と南三陸町は友好町。震災前から産業フェアなどで交流しており、震災後もすぐに支援に入りました。最初に来たのは平成23年の3月。これは大変なことになった、友好町として継続して支援しなければ、と心に誓いました。職員の派遣が始まると聞き、ずっと南三陸町で働きたいと考えていたそうです。「5年が経過し、ようやく自分の番が回ってきました。」

荻原さんが担当するのは、南三陸町の観光の振興です。「南三陸町は、震災前と比べて人口が3割も減少しています。これまでの町の規模を維持するには、交流人口の増加が至上命題。震災前の水準にもどし、さらに観光客を増やすよう、国内からはもちろん海外からの誘客を頑張ります。」

ずっと来たかった南三陸町。ようやく役に立てます。

VOICE of KEY PERSON 貴方がいれば大丈夫

02

この人がこの町を盛り上げてます！

明日への取り組み：むすび塾

河北新報 防災・減災 巡回ワークショップ

震災の記憶を新たに作る「むすび塾」。新しい課題が浮き彫りに。



平成28年3月24日に「むすび塾」が開催されたのは、石巻市魚町の水産加工会社「大興水産」です。減災・復興支援機構の進行で、19歳から53歳までの社員7人が震災時の行動や、会社の備えを議論しました。

大興水産の旧社屋があったのは、石巻港のすぐそばです。地震直後に「10メートルの津波が来るらしい」との報告を受けて、社長はすぐに、社員全員の退社を指示。それぞれ高台などに避難したため、犠牲者は出ませんでした。社長の決断を当時の役員は「英断だった」と支持。一方で、社員の多くが車で避難したことに対し、「渋滞に遭い、津波に巻き込まれる危険があった」と課題を指摘しました。

この経験を受け、大興水産では、平成24年に日本社から約50メートルの内陸に鉄骨3階建ての新社屋を建設しました。新社屋は、石巻市からも「津波避難ビル」に指定され、非常時には、社員はもちろん、誰もが屋上に避難できます。「今後は、1分でも早く3階や屋上に集まる訓練が必要だ」との声が上がりました。

震災後に入社してきた社員も増え、経験の伝承も課題になっています。新入社員からは「今回のワークショップに参加して、先輩たちから震災の様子を詳しく聞くことができた。災害が起きた時にどう行動すればいいか、考えるきっかけになった」という声も。震災の記憶を次世代に伝えることは、未来の命を守ることにもつながります。

避難訓練の充実に震災経験の共有。大興水産が感じた課題は、これからの私たちの生活にも活かすべき重要な教訓です。

今までの「むすび塾」の記事は河北新報社のwebサイトでご覧いただけます。
www.kahoku.co.jp/special/bousai/



むすび塾とは

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社が開催する巡回ワークショップ。「いのちと地域を守る」キャンペーンの一環として、平成24年5月から月1回、町内会や学校、企業などで開催し、平成28年3月で通算53回目となりました。

目的は、対談を通して震災時の教訓や減災・防災への備えを、あらためて考え直すこと。ワークショップの様子は、河北新報紙面でも公開し、防災や復興への行動を後押ししています。

STAFF'S VOICE 取材こぼれ話

編集後記

『NOW IS.』創刊号です。被災地で暮らす一人として、皆さまに「何か」を伝えるお手伝いができること、うれしく思います。毎月お読みいただけたら幸いです。

今号の特集は南三陸町。さとう宗幸さんに歩いていただきました。取材を

して驚いたのは、かさ上げ工事のスピードの速さ。下見から撮影のわずか10日間で、防災対策庁舎横の土地が見上げるほど高くなっていました。刻々と変わる被災地の姿を、今後もリアルにお伝えします。

また本誌は、宮城県の新聞社、河北

新報社とタッグを組んで制作を進めています。記者が集めるホットな情報も記事に生かして参ります。

最後になりましたが、本誌制作中に熊本、大分で大きな地震が発生しました。地震が一刻も早く静まり、復興への道筋が見えるよう、心より祈っております。



南三陸さん商店街で撮影。

NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

NEWS 01 復興を成し遂げる原動力に。宮城県職員、募集。

県の職員採用試験(行政職・技術職・警察官など)の受付を、5月13日(金)から順次開始します。

全国のモデルとなるような「創造的な復興」に向けた歩みを力強く進め、誰も「見たことのない宮城」を、県民一人ひとりの想いとともに、一緒に創り上げていきましょう。詳しくは県人事委員会事務局ホームページをご覧ください。



県人事委員会事務局
☎.022-211-3761
http://www.pref.miyagi.jp/site/saiyou/



県警察本部警務部警務課
☎.0120-204-606
http://www.police.pref.miyagi.jp/hp/keimu/police/

NEWS 02

次は私たちが支援する番！ 熊本地震義援金を受付開始

平成28年4月14日(木)から4月16日(土)未明にかけて発生した平成28年熊本地震。熊本県熊本地方を中心に多大な被害が生じています。

宮城県では、被災者の皆さまを支援するため、県庁1階受付や各地の合同庁舎等に募金箱を設置し、義援金を募集しています。

義援金は、日本赤十字社を通じて被災者の皆さまに届けられます。ご協力をお待ちしています。

ぼくたちも
がんばるモン!

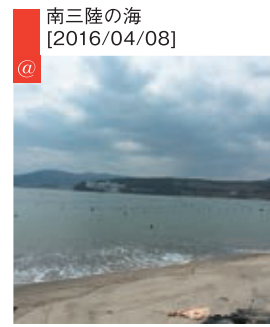


設置期間：平成28年6月24日(金)まで
県社会福祉課 ☎.022-211-2516
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/syahu/

NOW IS./ MIYAGI @SNS

NOW IS.では、5月末から各SNSでプロジェクトの進行や取材の裏話を発信する予定です。ぜひ、フォローして、被災地の「今」を感じてください。

また、皆さまの投稿もお待ちしております。



NOW IS.

防災

もしものときにあなたを守る
防災のヒントを、
12回にわたって紹介します。

Theme ① 備え

今、また、東日本大震災のような激しい揺れに襲われたら、どうしよう。
帰る手段がなくなったら…、食べ物に困ったら…、家にいたら…。
事前にしっかり備えておくことが、もしもの時に身を守る盾になります。
まずは、今すぐできる備えからはじめてみましょう。

防災ポーチ



24時間を乗り切る 防災ポーチをin!

日頃から携帯トイレ、除菌ウェットティッシュ、ゴム手袋、飴などを入れたポーチを持ち歩きましょう。家に帰れなくなっても、このポーチと500mlのペットボトルさえあれば、24時間は対応できます！

食料備蓄



非常時に元気が出る おいしいローリング備蓄

不安なときだからこそ、おいしいものを食べて元気を出すのがベスト！いかにも非常食ではなく、レトルトカレーやサバ缶など、普段の食事にも使える好みの食品をローリング(循環)備蓄しておきましょう。

部屋づくり



即、逃げられる！ お部屋クリーン大作戦

散らかった部屋ではスムーズに避難できません。日頃から整理整頓しておくことで、例えば停電したときも、どこに何があるのかだいたい分かります。転倒防止のため、家具や家電の固定も忘れずに！

取材協力：東北大学災害科学国際研究所 保田真理 防災士

防災コラム Vol.1

- ★身近なものを有効活用！
- ★使ってみよう！食べてみよう！
- ★地震や防災のこと、みんなで話そう！

いろいろ揃えたい防災グッズですが、本当に必要なものは普段使っているものがほとんど。新たに買うのではなく、身近なものを見直してみましょう。また防災グッズや備蓄食料は、もしもの時に戸惑うことがないように、一度試してみることが大切です。そのとき、家族や大切な人と、地震のことや防災について、じっくり話し合うことをおすすめします。

保田真理
防災士
東北大学災害科学国際研究所



災害リスク研究部門津波工学研究分野に所属。防災士として、防災・減災のノウハウを広く伝える活動をしている。NPO防災士会みやぎ会員。

NOW IS. ①

昨年度までの「みやぎ復興プレス」をリニューアルしました。

発行：平成28年5月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2443 Fax:022-211-2493
「復興情報発信プロジェクト NOW IS.」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県
Miyagi Prefectural Government